

きのくに学力定着フォローアップ実施報告書（9月）

学校名	和歌山市立福島小学校	校長名	嶋本憲司
アドバイザー氏名	武西良和		
学力向上に向けた主たる取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科において、節目の場面で書く活動を取り入れる。 ・子ども一人一人に話す機会を多く取り入れ、友達の考えを大切に聞かせていく。 		
<p>1 主たる取組の具体的な方策及び活動内容</p> <p>○5月31日（火） 5・6限全学年授業参観 放課後 若手担任との個別の懇談 子どもの学力向上に向けての取り組みを進めていけるように、担任が抱えている課題について、担任本人に気づいてもらうため、1回目にアドバイザーに各学級の授業参観をしてもらい、参観後に若手の担任との個別の懇談を行ってもらった。</p> <p>○6月8日（水） 5限4年の学級にてアドバイザー師範授業 授業後に協議会 2回目は、アドバイザー自身が「てるてるぼうず」の詩を使って師範授業をしてくださった。協議会では、詩の学習の中でいかにして言語力を高めていくかを中心に話あわれた。その後、詩の指導の仕方や考え方について指導を受けた。</p> <p>○6月15日（水） 5限4年研究授業 授業後は協議会に同席し助言 3回目は、体育科「ソフトバレーボール」の研究授業に同席してもらった。協議会では、体育の授業の中で「書く」をどのように進めていくか、についての指導を受けた。その後、各教科の核となる「考える力」について指導を受けた。</p> <p>○6月22日（水） 5限3年研究授業 授業後は協議会に同席し助言 4回目は、総合的な学習の時間「情報モラルを身につけよう」の研究授業に同席してもらった。学習指導の基本となる子どもの実態から出発する授業について話し合い指導を受けた。</p> <p>○7月6日（水） 5限1年研究授業 授業後は協議会に同席し助言 5回目は、学級活動「食べ物の働きを知って何でも食べよう」に授業に同席してもらった。協議会では、根拠をもって考えられる子を育てるにはどうするか等の指導を受けた。また、教科を絞らずにいろんな教科の中で研究を進めていくためには、研究の視点をどこに持っていくかについても指導を受けた。</p> <p>2 成果等の検証</p> <p>現職教育の中で、武西先生から指導をいただいた「言語力の向上」「考える力」「考えの根拠」等の部分について、管理職も指導いただいた観点を大切にして指導を続けていく。また、指導されたことを日頃の授業の中で反映させているかについては、管理職が各学級の日頃の授業を参観しに行き、指導された内容が授業実践の中で継続していけるように支援していく。</p> <p>今年度の学力・学習状況調査結果より</p> <p>今年度の結果は、国語A・Bと算数A・Bにおいて、全国正答率と比較すると低い状態であった。各教科を領域別に見てみると、国語科のA問題では、すべての領域で全国正答率と比べて低い正答率であったが、和歌山県や和歌山市の正答率とあまり変わらなかった。B問題では、「話すこと・聞くこと」の領域でかなり低い正答率であった。算数科のA問題では、「数量関係」の領域で全国正答率と大きな差があった。B問題では、「数と計算」「図形」「数量関係」の領域でかなり低い正答率であった。また、正答数分布グラフでは、できている子とできていない子に</p>			

二分される傾向があることが分かった。

学習についての児童アンケート集計結果では、目標の提示、授業の振り返り、ノートを使ったまとめや振り返り等は、学力向上推進プラン（中期計画）の取組内容に掲げで継続して行ってきたため、「あてはまる」「どちらかと言えばあてはまる」と答えた児童の割合が90%前後あった。その他の設問においても、80～90%が「あてはまる」「どちらかと言えばあてはまる」と答えており、「先生はわかるまで教えてくれる」という設問では、90%を超えており、教師集団として共通理解を図りながら、児童の実態に応じた取組を行ってきた結果の表れだと考えられる。

しかし、学力・学習状況調査の児童質問紙では、普段（月～金）約70%の6年児童が午後10時～11時に寝ている。授業以外に2時間以上勉強している児童が半数を超えている反面、テレビ、ビデオ等を利用している児童は、2時間以上と答えた児童が約70%であった。また、メールやインターネットを3時間以上している児童も13%いた。さらに、授業以外に1日当たり2時間以上勉強していると答えた児童は、普段（月～金）は半数を超えているのに、土・日曜日は13%しかいなかった。家庭において学校の予習や復習をしている児童は、数年前と比べると確実に増えてきていた（「している」と答えた児童 H26 約15%、H27 約25%、H28 約30%）が、「あまりしていない」「していない」と答えた児童も半数おり、家庭で進んで学習している児童と、遊び・テレビ・メール等に多くの時間を使っているとされる児童の両極端であった。

そこで、近年同じような状況であるため、対策として、家庭における自主学習の定着に向けて、本年度は、年度初めに保護者に対しては「家庭学習のてびき」「自主学習のすすめ」を配布した。また、児童に対しては低中高学年別に「自主学習のすすめ方」を配布し、担任よりすすめ方について説明を行った。自主学習ノートを準備して学習している児童も多く、徐々に定着しつつある。また、寝る時間が遅い、テレビやビデオ等を視聴している時間が長い、メールやインターネットに多くの時間を費やす児童が多いため、学校だより等で生活改善への呼びかけを保護者に行ったり、教育講演会で生活と学力についての話をしてもらったりしてきた。改善傾向にはあるが、テレビ等に子守をしてもらっているような家庭が多いため、今後もことあるごとに呼びかけを続けていく必要性を感じている。

3 今後の計画、取組予定

2学期以降は、学校教育課訪問時の研究授業以外に、2・5年と特別支援学級の研究授業が残っているので、研究授業を参観してもらい協議会で指導を仰ぎたいと計画している。3学期には、国語科の説明文で指導をしていく上で注意しなければならないことを講演してもらい、最後に全学級の授業を参観して若手教員に対して指導を行ってもらおう計画をしている。